

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
1	総合計画を八千代市の最上位の計画と位置付けているなら、これ迄4回の総合計画を推進してきたのだから、当然これ迄の成果を検討・検証し第5次総合計画に引き継がねばならない。
2	1. 第4次総合計画の現状 第4次総合計画の対応課題は 前期134で目標指標を達成しているのは45で達成率は33%で落第点である。このような目標を掲げながら、何故目標を達成しなかったのは、計画が悪かったのか、やり方が間違っていたのか、努力が不足だったのか、予算が足りなかったのか等の検証・検討が必要であり、改善手段が後期基本計画に反映すべきである。
3	2. 第5次計画の基本構想の問題点 *第5次の基本構想を議会で議論もせず、市民説明会もせず、パブコメを収集するのか。 *第4次の成果が整理されていないまま、第5次構想が策定されている。 市民代表の市長、議員は認識を市民と共有し、問題点を改善・推進するのが目標管理だと思う。 *公共施設等総合管理計画の推進に言及がなく、どの項目に入るのか明確ではない。 *財政に関しても「財政運営の基本計画」にも言及がなく、目標値との関係が不明確のままである。 *当市の最大投資となる新市庁舎117億円についても全く記述がない。必要性と費用に関して市民に理解を得るような説明が必要ではないか。 *コロナ対策によりテレワーク、リモート会議などが実施され、働き方の形態が変わりつつある。いつまでも1か所集中の身の丈に合わない新庁舎計画を再考する時期ではないか。 *全体として行政がリードしていくのではなく、市民を支援して改善していこうとしているようだが、第4次の市民主体の運営を削除している。どのように基本姿勢で対応するのか理解できない。 *行政の問題点、市民の声を公表する場がない。市民参加の対応を考えてもらいたい。 *生活環境状況を他市との比較で公表し、改善策の提案又は市民の提案を求める
4	1)1節について *各節に要望する事だが、4次の目標指標の未達成課題の総括と今後の対応を明確にする。 *ひとり親、身障者、低所得者、高齢者など社会的弱者にたいして、耳を傾け支援する。 *保育園、学童保育不足を明示し、支援が各家庭の要望に応えられる対応を目指す。 *地域社会の福祉を地域の支え合いに頼るのではなく、行政が主になり地域福祉を改善して頂きたい。 *保険制度を単に現状を守るだけではなく、財政の工夫で、他市より有利な制度を目指してもらいたい。 *感染症対策での情報発信が少なく、市民支援の対応も他市と比較し優位性を感じない。
5	2)2節に関して *4次の目標指標の未達成課題の総括と今後の対応を明確にする。 *教育は人に迷惑をかけない事を学ぶ。有限の資源を未来に残す。他の人を支援し役立つ知識・行動を学ぶ。社会のルールを身につける。個性を見つけ伸ばす。教育の目的を明確にする。 「教育を通じた街づくり」の意味が分からない。 *文化、文化財は国際的のものを見る、知る、評価する教育を中心にする。 *男女共同参画社会を削除するな:女性参加を強力に進める。 議員、委員会等の市民代表を選出に女性枠を設ける。 *スマホ、PC を利用した教育、情報伝達を考慮した環境の整備と低所得者への支援。
6	3)3節に関して *4次の目標指標の未達成課題の総括と今後の対応を明確にする。 *「広報やっち」「やっちご意見箱」の改善。生活環境状況を他市との比較で公表し、改善策を提案・実施し、同時に市民の声を聞く。又、「やっちご意見箱」の意見を適時、層別検討し、行政がどの様に対応したのか公表する。 *避難所の整備計画を検討する事。 *上下水道局が別館利用しない理由不明
7	4)4節に関して *4次の目標指標の未達成課題の総括と今後の対応を明確にする。第4次の3節を省略した理由は？ *自動車の無い人の移動手段の工夫 *国道296の改善対応 *ソーラーシェアリングによる、農業の再構築。
8	5)5節に関して 4次の目標指標の未達成課題の総括と今後の対応を明確にする。
9	4. 構想推進のため 第4次総合計画では、市民主体による自立的な行政経営基本方針と定めていたが、10年間でこの基本方針により、何が実現したのか理解が出来ない。「広報やっち」「やっちご意見箱」「市民説明会」「市民ホール」「各種審議会、委員会」「パブコメ」これ等の運営内容が変わらないし、変えようと言う兆しも見えない。

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
10	<p>5. 第5次総合計画立案の検討課題と要望            第5次総合計画のスタートが1年遅れても、これ迄の問題点を整理し未来につながる計画にすべきだと思う。            ＊責任部署を明確に公表し、5W1H, PDCA の確実な実施するための、マニュアル作成            ＊第4 次の成果を検証・検討して評価し、第5 次総合計画の改善対応に組み込む。            ＊H27 年立案の「公共施設等総合管理計画」推進内容を組み込む。            ＊H28 年立案の「財政運営の基本計画」をもとに財政の改善対応を具体的に推進する。            ＊市民の声を聞き、意見交換するため「広報やっち」「やっちご意見箱」市民説明会等の改善を工夫する。            ＊委員会、審議会に参加する市民人数の増加、特に女性枠を設ける。            ＊テレワーク、リモート会議など働き方が変化する時代に、財源を考えて新庁舎計画を再検討する。            ＊市の仕事に関しても、テレワーク、ZOOM による会議などによる工夫する。            ＊第三者の支援企業に頼らず、計画立案、推進を要望する。</p>
11	<p>第5次基本構想に、八千代市として性的マイノリティーのためのパートナーシップ条例の導入を盛り込むことを提言します。            また、市外に転出すると効力を失ってしまう(例:千葉市)制度では、不利益が大きいと、パートナーシップ制度を導入している自治体とパートナーシップ制度のパートナーシップを締結し、再度の手続きの必要がなくパートナーシップ制度の効力を発揮できる仕組みを周辺自治体と協力して構築することを提言します。            また子育てや生活で多様な困難に直面している性的マイノリティーへの支援の拡充、相談体制の確立、学校教育や社会教育を通じた正確な知識の普及と人権意識の啓発を要望します。</p>
12	<p>「第4章 第1節 とともに支え合い健やかでいきいきと過ごせるまちづくり」について            性的マイノリティーのカップルが置かれている子育て環境は、非常に脆弱です。            そもそもカミングアウトができていない場合、ひとり親家庭として認知されている場合も多く、また同性パートナーの場合、職場で用意されている種々の福利厚生を利用することにも困難がともないます。            同性パートナーシップ制度を導入することで、市内企業・各種事業所等に対して知識と意識の啓発を促しやすくなり、より当事者が様々な制度を利用しやすくなることが期待されます。</p>
13	<p>「第4章 第2節 豊かな心と文化を育むまちづくり」について            市としてパートナーシップ条例を導入することは、子どもたちに将来を生きる希望を与えることができる大きな手段であると考えます。</p>
14	<p>「第4章 第3節 安心・安全に暮らせるまちづくり」について            性的マイノリティーに対する相談・支援体制の強化は急務です。</p>
15	<p>「第5章第3節 多様性のあるまちづくりの推進と魅力発信」            ここにある文言は、まさに多様性の尊重と包摂性を書き表しているものであり、市として積極的に同性パートナーシップ制度を導入する根拠として書かれているものとも読むことができます。</p>
16	<p>八千代市として同性パートナーシップ条例を策定し、性的マイノリティーの存在を認め、支援・相談体制を明確化するとともに、教育を通して多様な性のあり方・生き方に関する正しい知識を普及し人権意識を向上させることは、性的指向および性自認に関わらずすべての市民が安心して、より良い生活するために必要なものであるといえます。</p>
17	<p>(1) 八千代市もこれまで第4次、40年にわたって続けてきた現行の基本構想⇒基本計画⇒実施計画の方式が果たしてベストなのか、過去を総括し見直す必要があると思う。            結論を言えばスローガンの・抽象的・総括的な基本構想と基本計画作成に膨大なエネルギーを使うのは止めて(文章的には出尽くしており同工異曲)、財政状況を踏まえた、優先順位を考慮した実施計画中心の総合計画に転換すべきだ。</p>
18	<p>(2) 何を指針として実施計画を策定するのかが問題になるが、現役市長の選挙公約を土台にして、4年毎に更新するのが合理的であり、現実的でもある。            市長は市政運営の基本理念、主要施策を選挙公約に掲げて市民に選ばれた市政の最高責任者である。公約実現に努める義務と責任がある。そのための施策を予算化して実行するのは当然である。結果については4年毎の検証、評価を受け、市民の審判を仰ぐのが公平である。</p>
19	<p>(3) 第4次総合計画(前期基本計画)の課題達成率は33%で惨憺たる結果に終わっている。            何が足りなかったのか、なぜ達成出来なかったのかについても検証も反省もなく、責任の所在もハッキリしない。多くの課題が未達成の反面、基本計画や実施計画になかった大型の新規事業が財政措置も不明なまま突如始まる。            このような総合計画なら有っても無くても同じである。計画づくりに膨大な労力、時間、経費をかける必要はないと考える。行財政改革の対象にすべきムダである。</p>
21	<p>八千代市は市内の重要拠点として八千代台、勝田台、八千代中央、緑ヶ丘地区となっておりますが、そこで市面積の3分1を占める地区としてバランスを取るため、北部の拠点として陸中学校周辺に公共施設の集約を考えています。            1)小, 中学校の一貫校(小, 中学校一校ずつ)            今後小学校の生徒数も減少し通学路も狭い、歩道がない、カーブが多く見通しも悪い、狭い道路に迂回者が多い7~8時の間に約150台も通過する。保護者も統合を希望している。防犯上も可、交通の利便性も良い。            2)スーパーストアの誘致(高齢者の買い物不便)            3)公民館, 郵便局 市役所出張所, 地域集会所の集約(駐車場を一か所にまとめる。空地あり地主の提供もある)</p>

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
22	八千代台地区(西,北,南,東)については,八千代台団地が出来てから一度も大規模な都市計画の変更が行われておりません。八千代台地区の道路は,道路幅が狭く歩行者が通るときに車にぶつかりそうになる時が多々ありますし,幼児,高齢者に優しくありません。用途地域が緩和されれば道路拡張や建物を作り替えるときセットバックが可能になります。又市長の公約でもある形成八千代台駅の高架化をするためにも,メイン道路と駅周辺の道路を都市計画決定する必要があると思われます。 八千代台地区の用途地域の変更と,京成八千代台駅高架に伴う周辺道路を都市計画決定することを望みます。
23	1、八千代市第5次基本構想(素案)(以下,第5次(素案)と云う)は,第4次総合計画~~を踏襲した内容であると想定するが,何の基本構想か分からないため表紙のタイトルは八千代市第5次総合計画基本構想(素案)として頂きたい。
24	2、第5次(素案)のキャッチフレーズ「人がつながり 未来につなぐ 笑顔があふれるまち やちよ」2020年4月28日に更新された八千代市第4次総合計画基本計画(令和2年度版)(以下,第4次と言う)のキャッチフレーズ「ここに住みたい,住み続けたいまち やちよ」と「快適な生活環境とやすらぎに満ちた都市八千代」とあるが,第5次(素案)のキャッチフレーズ「人がつながり 未来につなぐ 笑顔があふれるまち やちよ」を決めた経緯(作成者の判断,市職員の総意,市民へのアンケートの結果とか)があれば,記載して頂きたい。 又,日本全体が人口減少問題に直面しており,市町村間で人口減少問題の改善等に取組んでおり,キャッチフレーズとしては「ここに住みたい,住み続けたいまち やちよ」が総論としてはベターではないか。
25	3、第5次(素案)は,第4次から踏襲した内容・見直した内容・新たに追加した内容をPDCAサイクルに従って分かりやすく記載をして頂きたい。
26	4、第5次(素案)の内容について ①計画期間は,令和3(2021)年度から令和10(2028)年度の8年間であるが,この間にビックプロジェクト(多額の財政支出)である市庁舎の建替え及び清掃センターの設備等の更新又は大規模修繕等が予定されており,財政規律を保つ基本的な考え方についても記載して頂きたい。
27	②危機管理について自助・共助について記載されているが,何時発生してもおかしくない大災害時と共存が想定される新型コロナウイルス拡大防止のための避難所における3密を避けることやソーシャルディスタンスを保つ公助としての基本的な考え方についても記載して頂きたい。
28	③ライフラインのうち上下水道については記載されているが,道路・橋梁等が記載されていない。本市が管理している道路・橋梁等もライフラインであり考え方を記載して頂きたい。
29	④キャッチフレーズの「人がつながり 未来につなぐ」に記載されている内容は住民に期待する他力本願に響く,約50年前の昭和の時代に作られた松戸市の「すぐやる課」を模範とする課を作り,住民に安心・安全な生活環境を提供するとか行政側の考え方があれば記載して頂きたい。
30	⑤キャッチフレーズの「~~笑顔あふれるまち やちよ」に記載されている内容を実現手段として考えていることがあれば記載して頂きたい。
31	○「グルット号」の件 勝田台北二丁目に「市役所」「中央図書館」に行くための交通機関がなく,以前は「グルット号」「自転車」等を利用していましたが,今日どちらも利用出来ず,困っております。
32	P8 3労働環境の下から2行目ですが,「高齢者,女性,外国人などの多様な人材が」とありますが,就業機会の拡充で大切なのはその人達だけではなく,社会問題化した「61万人のニート」と呼ばれる人々や,就職氷河期世代,現在コロナ禍で雇止め会い,失業している人々など失業した中高年も是非この文言に加えていただきたいです。 失業した中高年層や就職氷河期世代の取り込みをいかにしていくかが今後の少子化による人口減の歯止めのひとつかと思えます。 働き盛りの中高年失業者をまずいかに活用するかが今後の八千代市の産業の振興に大きく寄与するでしょう。
33	八千代台駅から大和田駅の間にはコンビニが欲しいです。理由と致しましては,ご近所は高齢の方が多く,足腰が悪い方もおり,駅までの買い物も大変だとおっしゃっていました。
34	1、第1章 都市将来像 1P 上から4行目 やすらぎに満ちたまちづくり・やすらぎの意味がよくわからない
35	2、基本理念 2P 上から8行目 市民やコミュニティの自主的活動を促進し,主語がだれか不明
36	3、構想の推進のため 9P 地域の視点に立った街づくりの推進 地域課題の解決にむけて主な担い手である市民活動団体などが主体となった…主な担い手,主体となった活動これらの表現について一方的であると思われるが?

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
37	従来の「人がつながり未来につなぐ緑豊かな笑顔あふれるまち やちよ」ではなく、キーワードとして「持続可能な開発目標SDGsの取組み」と「ゼロカーボンシティを目指す」を使ってもらいたい。
38	1、今日まで市を挙げ努力されてきた第4次計画を総括し、成果と欠陥を踏まえた第5次基本構想(素案)だと思われませんが、第4次計画で出来たこと、出来なかったことが、必ずしも市民の目に届いていません。
39	2、構想の実現には財政が大きく関わってくると思われます。市財政の健全化を願うとともに、不急の市庁舎新築計画を後回しにしても、市民の思いに添った事柄に焦点を当て、八千代市民のためになる基本構想実現を願うものです。
40	これから人口減少が止まらない時代に入ってきます。人口増加がそれほど期待できない中、定着住民を確保する必要があります。そのためには、30～40代の女性が住みやすいと思うかがカギだと言われます。教育、医療等、子どもに関する取り組みがどれだけ斬新でわかりやすく手厚いかが大事ではないでしょうか。 災害が気候変動とともに多発する時代に入ってきました。各地域の避難所の環境や物的人的充実をこれまで以上に予算を付けて回り、町内会との連携も密にする必要があると思います。 コロナでも明白な通り、今後いっそう地方公共団体の役割が増加します。SDGsを市でもどうやって取り組めるかを示す必要があるのではないのでしょうか。他市でも実施しているように再生エネルギー(太陽光)を公共で運用したり、企業を誘致して、地産地消事業を市でも進めることにより税収の減少をくい止め、市民の就労を増やし定住に結びつけてはどうだろうか。災害時、地産地消エネルギーがあれば昨年のような大規模停電は防げるのではないのでしょうか。 この次の基本構想はこれまで以上にコロナ後の社会を想定したものでなければますますこの市は遅れると思います。持続可能な社会を目指す必要がこの2、3年の世界的気候変動でもう待たないです。これを踏まえた画期的な構想の変革をお願いします。
41	私は、八千代台に居を構えて四十五年になります。当時はスーパーマーケットや商店が沢山あり、緑が豊富できれいな街並で、とても住みやすく感じられました。ところが、西口商店街はシャッター通り、公園は手入れが行き届かず悲しくなる様な現状で八千代台駅周辺は取り残されている昨今です。 大分前になりますが”八千代市を緑とバラでいっぱいにする”構想がありましたが、いつの間にか立ち消えになってしまいました。 駅は町の入り口です。きれいになってほしいです！ ”ゆりの木”がきれいに植えられた中央駅付近のように八千代台駅もきれいになってほしいです。どうぞよろしく願いいたします。
42	誕生間もない八千代市に在住して30年余り、多くの団塊世代仲間と共に八千代の将来に期待を寄せています。 【将来都市像】 八千代も郊外型都市(ベッドタウン)として発展、それが今や少子高齢化の真っ只中です。ポストベッドタウン化・少子高齢化対策が、コンパクトなだけにより急務です。環境の世紀といわれる21世紀、昨今の世代間交流の希薄化解消を目指す八千代市創りを願います。周りの自治体よりユニーク・差別化したわがコミュニティーやちよ。
43	【基本理念】 豊かな自然・心を癒す緑は人の交流を生じる。残念ながら自然環境・緑の整備が余り進んでいない、この整備を進めてパークシティ(公園都市)やちよ・・・これはシンボリックの意味で単に緑や・自然環境に限定されない
44	【将来都市像の実現に向けた5つの柱】 5つの柱に加えてこれを縦軸として、横断的な以下の視点が追加される必要があると思う ①地区別の分析・・・都市部・農村部・ ②エリア別の分析・・・商工部・イベント部 更に、時間軸として ①集中or分散・・・網羅or選択 ②自然n・社会環境変化の考慮 施策のポイントをあぶりだす為、上記の視点が不可欠
45	【施策の大綱】 従来の枠組みを超えた発想で将来への方向性を考えたまちづくりの施策であってほしい。例えば ①少子化・高齢化社会のまちづくり ②人間・自然環境にやさしいまちづくり ③コンパクトで快適なまちづくり ④情報発信のできるまちづくり ⑤セールスポイントのあるまちづくり 又、別格で着想すべき点は、 ①複数の大規模団地のポストまちづくり ②文化・イベント重視のまちづくり
46	【構想の推進のために】 基本構想に魂を入れ、推進するためには ①今までの基本構想の検証・評価で進捗確認 ②地域情報のNW化・積極的な情報崩壊 ③市民NW・NPO法人の活性化する ④ばらまきではなく、大胆な発想による選択と集中でやちよイメージのアップを念頭に

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
47	<p>【土地利用の基本的な方針】 このタイトルとすると八千代市第五次基本構想の考え方・制限条件に聞こえ、折角の将来像に影を落としている。6章は修正・編集すべき。</p> <p>団塊世代の高齢者だけでなく若年世代否、万人にいいぞやちよ(ヤッチー)と呼ばれる様な都市将来像を望みます。</p>
49	<p>今後の八千代市の発展のために要望したいことがあります。それはゴミの問題さらに環境問題に関してであります。世界中でも、プラスチックゴミに対する取り組みがなされているようです。スーパー、コンビニのポリ袋の有料化により、一歩踏み出した感があります。ゴミ収集に際して分別の細分化に取り組めないでしょうか。さらに毎年疑問に感じている、新年のゴミ収集の休みです。正月早々、家の中にゴミが堆積されています。交代とか何か方策がないものでしょうか。</p>
50	<p>第5章「構想の推進のために」に掲げられている全5節を推進していくにあたり、八千代市の将来都市像「人がつながり未来につなぐ 緑豊かな 笑顔のあふれるまち やちよ」というスローガンを、八千代市民が身近に感じられるような、場所にどんどん掲示していくのがいいと思いました。実際、八千代市民が八千代市について興味関心を持ち、八千代市が何をやっているのか知ってもらうことが先だと思いました。</p>
51	<p>I コロナ対策 市独自のコロナ検査の対策が必要である。コロナ担当者を決め、市民のコロナ意識の啓もうをはかって感染拡大を防止する。市は、検査・入院等、県の支持を待たず、市独自の対策をもつ。市民のコロナの意識向上をまず図ることが大切だ、「市は市民のコロナ意識の啓蒙をはかる。」</p>
52	<p>II 今、市外に流出している巨額のエネルギー費用(600億円)を市が市内に循環させ、地域の活性化を図ることに力を注ぐことが必要だ。 ・屋根上の太陽光発電を多くして、市外に流出している巨額エネルギー費を市内に循環させて地域の活性化を図ることが急務だ。 ・ベランダ発電にとり組み、家庭内の電力発電を自家製のものとして電力料金をうかせる。 ・一家に一台のポータブルソーラー&amp;電源で自然エネルギーをたくわえ、災害時電源に備える。 地産地消のエネルギー循環を生み出す。少子高齢化が進む未来に向けての地域活性のまちづくり例になる。</p>
53	<p>III 新市庁舎の構築を今一度考え直す。 市は市民と一体となって共感し合う計画のもと新市庁舎を計画し構築して未来にむけて突進する。優れた市民の考えを市は思いきってとり入れることが未来にむかうこととなる。 ZEB実現には省エネ、創エネ、蓄エネ技術のベストミックスが必要である。ZEB庁舎を実現させよう。ZEB庁舎の実現が地産地消のエネルギー循環を生み出し、教育面・高齢者等の資金を豊かにすることとなるだろう。市庁舎整備の基本理念をみごとに咲かせましょう。八千代のバラの花を美しく咲かせ続けましょう。</p>
54	<p>IV 「グリーンリカバリー」 今欧州中心で進められているようですが、八千代の市民も大いに勉強しましょう。</p>
55	<p>基本構想ということで、大きな方向性なので広がりがある文章となっていることは理解していますが、将来を考えていくときにぜひとも考えていただきたい。キーワードは「レジリエンス」です。昨今の気候変動リスクによる豪雨や台風あるいは地震などを考えた時に、行政としてもっとも重視してはいけないのが、安全・安心とその「レジリエンス」と思います。</p>
56	<p>第3節 安心・安全に暮らせるまちづくり 2. 暮らしの安全 「自助」、「共助」については書かれていますが、行政がしっかりとやらなくてはいけない「公助」の言葉がありません。「公助」と明記し、行政として何をやっていくのかを表記する必要があると考えます。</p>
57	<p>3. 上下水道 項目として「3. インフラ」としてその中で上下水道、道路、橋等も記述すべきかと思います。昨年の台風の経験からすると今後は電源の確保も重要となってきます。サバイバル電源の確保をどうしていくのか、その点についても記述すべきかと思います。</p>
58	<p>その中で、重要な言葉が「レジリエンス」だと思います。いかに強靱なインフラを構築していくかということをもっと基本構想の中で表現すべきです。</p>
59	<p>1.第5次総合計画において人口減少、殊に勤労年齢人口の減少、年少人口も減少するが、これにつき危機感がない。 2.勤労年齢人口の減少=税収減であることから、勤労年齢人口を増やす施策が必要である。 3.積極的に勤労年齢人口を増加させるために、“住みたいまち八千代”構想を提案する。</p>
60	<p>人口推計 1. 人口減少社会を迎え、維持ではなく発展的な考え方をもって取り組んで初めて維持ができるものとする。</p>

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
61	2. 人口が減少=税収が減ることとなり、例えば ・水道料金の値上げや ・ごみ回数の削減などが生じ、それを嫌う住民は他市へ転居する。 人口減少⇒さらに税収減となり、負の循環 これを防ぐには税収維持が必要であり、そのため勤労年齢住民の維持ではなく発展的な考え方をもち取り組んで初めて維持ができるものとする。
62	3. 第5次総合計画は新型コロナウイルス感染症の影響(新しい生活様式)などを考慮していない。 【影響】リモートワークや在宅ワーク等の広がり ↓ 東京の通勤圏に住む必要がなくなると東京のベッドタウンである八千代市に住もうとする住民が減少すると思われる。
63	今後の八千代市を考えるとときには、人口の維持、とくに勤労年齢住民の人口の発展的な考え方をもち取り組んで初めて維持ができるものとする。そこで八千代市の今後を考えると勤労年齢住民にとって“住みたいまち八千代構想”を提案する。
64	(1)学校教育 特色ある教育として、例えば英語教育やディスカッション能力の向上 学区制度を廃止して住民が学校を選ぶ。これらにより外部評価を高める教育を行なう。
65	(2)観光勤労年齢住民にとって“住みたいまち やちよ”構想として、例えば、市の中央部にある新川と京成ばら園を憩いの場所として観光資源化し有効利用を図る。また道16号線周辺から北部にかけて広がる農村地域の観光資源化を図る。
66	(3)経済“住みたいまちやちよ構想”は経済面において「人が集まり、事業が興る。事業が興れば経済が発展する。経済が発展すれば税収も上がる。」として人との行き来の活性化、そして経済の活性化を図る。中でも人が集まるためにスムーズな交通を目指して交差点の改修などの道路整備を図る。
67	<将来都市像変更案> 「未来の笑顔が描ける ロゼンティ やちよ」 是非記述してほしいこと ・従来の方針 ・市と市民の役割と関係 ・外部環境の変化 ・外部環境の変化に対応する持続可能な試み ・周辺の都市から羨ましいと感じるまちの魅力  代案1:未来の笑顔が描ける パラのまち やちよ 代案2:人がつながり 未来につなぐ 笑顔あふれる ロゼンティ やちよ
68	1. 基本構想の位置づけ 自治法2条4項が2011年5月2日に削除されました。条例等で位置づけを定義すべきですが八千代市では単に議決事件とする条例を定めただけです。これでは形式的な計画との印象を与えかねません。是非総合計画並びに基本構想の位置づけを条例等で明確にしてください。
69	2. 法律に基づく重要計画 法律に基づく計画として地方創生総合戦略、国土強靱化地域計画などがあります。総合戦略は総合計画の中に組み込むと宣言がありますが国土強靱化地域計画はどのような位置づけにするのでしょうか。 内閣では (1)総合計画よりも上位 (2)総合計画と並列の最上位計画 (3)総合計画に組み込み の3通りを提示しています。すでに昨年の補正予算で事業化されており、繰越明許費が計上されています。にもかかわらず何ら市民に経過報告がありません。予算の付き方からして国土強靱化地域計画の方が優先順位が高いように感じられます。昨年12月1日に内閣に対して令和3年3月までに作成すると他市に先駆けて宣言しております。
70	◆ 基本構想を8年にした理由はなにか 昨年のワークショップでは過去10年刻みであったことが示されておりました。その後8年とする変更があったのですから詳しい説明が必要です。各種計画がほとんど10年刻みになっております。今後総合計画と期間設定がずれませんがどのように調整するつもりでしょうか。特に公共施設等総合管理計画(これから策定される公共施設等個別施設計画を含む)は総合計画との連動することが重要と述べています。
71	◆ 基本構想は期限を定める必要はない 基本構想はまちづくりの方向性を示すものです。外部環境の変化が加速化しているからといって小刻みに計画すべきものではないでしょうか。本来は長期で考えるもので期間を定めることにはなじまないと思います。また、変更を必要とするのであればその都度変更すればよいのであってまさしく外部環境順応性を発揮すべきと考えます。まさしく持続可能な地方創生に繋がります。

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
72	<p>◆ 4+4=8 年で発生する課題                      現在八千代市の市長選挙は各基本計画スタート年次の5月に実施予定です。マニフェストを実現するためには基本計画の組換えが必要ですがどのような体制を考えているのか説明をお願いします。                      市民に開かれた行政運営を実現するためには明確な方向性を示しませんと総合計画が形式的な計画という印象を与えかねません。</p>
73	<p>◆「人口動向が令和9(2027)年をピーク」を訂正すべし                      総合計画策定基本方針発表直後に人口ピークが2年早まり令和7(2025)年になると公表されました。総合計画を検討する上で最も重要な前提条件の変更ですので少なくとも基本方針の修正は必須と考えますがいかがでしょうか。後日、市民が誤解を招かないように配慮すべきと思います。</p>
74	<p>4. 基本構想の構成案(1)                      ① 目的                      ・八千代市のまちづくりのミッションとビジョンを定めるもの                      ② まちづくりの基本的視点                      ・活力とチャレンジ                      ・新たな価値の創造                      ・まちの魅力を磨き、発信                      ③ まちづくりの基本的理念(行政としてのミッション)                      ・市民憲章に則る                      ④ 将来ビジョン(将来都市像)                      ・子どもたちの笑顔が見える                      ・若者や女性が輝く                      ・高齢者になっても活躍できる                      ・すべての人が自分らしく暮らす創造都市の実現                      ・以上を端的に表す言葉                      ⑤ 将来都市像実現のための要素                      ・人材の育成                      ・地域コミュニティの拡充                      ・地域経済の活性化                      ⑥ 基本計画に続く</p>
75	<p>5. 基本構想の構成案(2)                      ① 将来都市像                      ・まちづくりの基本的考え方                      ・将来都市像                      ・基本目標(分野別検討)                      1)健康福祉                      2)教育文化                      3)安心安全                      4)環境調和                      5)産業活力                      ＊)ユニバーサルデザイン:快適生活(心のバリアフリーとまちづくり分野)                      ＊)新未来チャレンジ(ポストコロナ)                      ② 計画の基本的なフレーム                      ・将来人口推計                      ・都市構造・土地利用の方向                      ・財政の見通し                      ③ 施策の大綱                      ・基本目標における具体的な取組内容                      ④ 構想の実現に向けて</p>
76	<p>6. 将来都市像策定の考え方                      ① 事務局によるたたき台                      ・分野別検討会、市民アンケート、ワークショップ等                      ・事務局で複数の将来都市像を複数パターン作成                      ② 総合計画審議会における将来都市像の検討                      ・将来都市像について審議                      ・修正の方向性・修正案を検討                      ③ 総合計画審議会における決定                      ・具体的なキャッチフレーズやキーワードの例示                      現在は①のレベルでかつワンパターンだけの提示</p>

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
77	7. 総合計画審議会 総合計画審議会が開催されたのは7月31日(金)でした。翌日8月1日(土)に広報にてパブリックコメントのアナウンスがありました。議事録が公開されたのは9月2日でした。 市民に建設的な意見を求めるには時間に十分な余裕が必要です。 審議委員の意見書が8月20日期限で求められています。本来であれば意見書を踏まえてパブリックコメントを実施すべきと思います。
78	8. まち・ひと・しごと創生懇談会との合同協議 総合戦略は総合計画と一体として策定とあります。従って合同協議が必要となりますがどのようになっているのでしょうか。
79	9. パブリックコメントの告知と公表資料 8月1日付け広報にてパブリックコメント(以下パブコメと省略)の告知がありました。しかし、資料について何ら説明がありませんでした。最低でも「将来都市像」について目につくところに掲載し意見を求める必要があったと思います。
80	10. 課題の概観 ※現在の構成を追認したわけではありません。(別表に示す。)
81	11. 修正案一覧表 ※全面的な見直しが必要です。もし項目の中で採用された場合の修正事項です。(別表に示す。)
82	12. 最後に 基本構想案は、他の自治体と比べ市民に十分な説明がなく、「市民にわかりやすいまちづくりの推進」に矛盾していませんか。
83	1. 第5次基本構想(素案) 1)第2章 基本理念 「市民憲章の精神のもと」とありますが、基本理念は「市民憲章(のさらなる推進)」なのではないでしょうか。
84	2)地球規模で取り組みが必要な、SDGs、COP21にたいして、市の取組を構想に盛り込むべきだと思います。 第4次では「温室効果ガスの削減、新エネルギー・省エネルギーへの取組」とあるのに第5次では「環境負荷の低減」という文言のみで非常に後退した表現になっています。「RE100」への具体的な取り組み、「SDGs 未来都市」「2050年ゼロカーボンシティ」宣言をしてほしい。
85	3)災害に強いまちづくり 昨年台風で八千代市にも停電等の被害が出たり避難所の雨漏り、避難所運営等多くの問題点が顕在化したと思います。今後災害が多発すると警告されています。災害に強い街づくりを基本構想に盛り込むべきだと思います。
86	4)老朽化したインフラについて 人口は2025年がピークでその後減少に転ずる見通しですが、その前提においての税収見通しの上で老朽化しているインフラをどのように優先順位をつけて対応するのでしょうか。美辞麗句が並んでいても元手が無いと何もできません。民間ではコロナにより働き方が大幅に変わりました、市も変わるチャンスだと思います。従い、新市庁舎については抜本的な見直しを行い、存続が危ぶまれている少年自然の家改修等、基本構想でも重視している子どもに振り向ける費用を捻出することを構想として記すべきだと思います。
87	5)平和都市宣言 宣言文の重要性は現在更に増していると思うので、基本構想に平和都市宣言の理念を盛り込んでいただきたいです。
88	6)策定スケジュール 令和3年度初めに市長選があり、第5次基本構想/総合計画の最終決定は現市長再選も含め新体制になってから行うべきだと思います。あるいは、新体制を待たず最終決定をするのであれば、「市長が変わった場合は修正可能」ということを第5次基本構想/総合計画に記すか、別途条例で定めるべき。
89	7)用語、言い回し 全体的に硬いしわかりにくいです。市民に判るように、もっと平易な言葉でかつ章立ての前後関係がわかるような言葉を使ってほしい。
90	2. 基本構想(総合計画)とマスタープラン 基本構想は8年、マスタープランは20年スパンとのことなので、普通に考えればより長期スパンの計画が上位であるべきであり、バラバラに見直すのも整合性に疑問が残るし、より上位の基本構想をわずか半年くらいで策定するのに、マスタープランを数年かけて策定する、というのはおかしいと思います。基本構想ももっと時間をかけて広く意見を聞き、市民の方が納得する構想を作るべきではないでしょうか。
91	1)新体制(現市長再選も含めて)になってから基本構想(総合計画)、マスタープランをセットで考える。
92	2)基本構想を20年とし、総合計画とマスタープランは一体化し、基本構想とマスタープラン(あるいは総合計画)のセットで将来に向けての構想計画を市民に示す。



◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
93	1. 公共設備の建て替え時に民間資金を利用する。 八千代台自治会館の跡地にコミュニティスペース、八千代台図書館、八千代台自治会館等の施設が入るビルを建て、上部はマンションや貸事務所とし、土地の多角化を図る。経費は、土地を売却し必要な階を買い取る方法もある。
94	2. 商店街の活性化の方法を見直す。 エポラ通りの一部は駐車禁止になっていますが、以前に比べ現在の交通量は減少していると思われますので、駐車禁止の意味はどこにあるのでしょうか。状況が変化していますから、現状の価値観に合わせ、市民の利便性と商店街の活性化を図るために、エポラ通りにコインパーキングを設け、短時間の買物、飲食、郵便局、銀行、市役所等の利便性を上げてはどうでしょうか。店の売り上げに効果があり、税収増も期待できる。
95	3. 総合交通・道路環境整備に自転車の活用を進める方針を入れる。 自転車の活用を容易にすることで利便性が上がる。バスや自動車を使わないのでCO2削減地球温暖化の抑制に貢献できる。 1) 自転車レーンの表示をし、安全に走行できるようにする。 2) シェアサイクルのステーションを設け、短距離の利便性を高める。サイクリングの為に新川ウォーターフロントへのアクセス道路を考えると、観光にも貢献できる。
96	4. まちの景観の策定を入れる。 八千代台駅西口のビルの多くは、建て替え時期に来ていると思われるので、ビルの建て替えた後の街並みのビジョンをビルオーナーを含め検討し、統一感のある綺麗な景観にする。
97	5. ボランティア制度の充実をはかる。 1) 有償ボランティア制度を設け、元気な高齢者に市役所の業務の一部や環境整備に尽力して頂く。市役所職員や外注業者を使って業務を行うより、一人一人の効率は低いかもしれないが、大人数が携われるので、全体としては、費用が抑えられ、高齢者のやりがいや生きがいにつながり、高齢者が健康に過ごせるメリットが期待できる。 2) 資金として、市民活動団体支援金を適用する。市民活動団体支援金の資金は個人市民税の1%、約1.2億円であるが、実際に交付されているのは400万円ぐらいである。この資金を使う。 3) 地域ポイント制度にもこの資金を適用し次年度以降も継続する。地域ポイント制度には有償無償ボランティア活動も含める。
98	6. 総合交通・道路環境の整備に京成線を渡る道路の整備を含める。 八千代台西の京成線高架下の道路の片側通行を相互通行できるように道路を拡幅する。県道262号線からの右折レーンが設置されることは、交通量が増えてきたことであり、それに合わせて高架下の片側通行の解消は必要である。
99	7. 市役所の市民サービスとしてワンストップサービスを取り入れる。 市役所は縦割り組織だが、住民は縦割り組織的に生活しているのではないので、たらいまわしにされるのを防ぐ為に住民の窓口は、「ワンストップサービス課」とし、「ワンストップサービス課」が関係部署の調整を実施し解決を図る。
100	(1) 第1章「将来都市像」 「人がつながり」は、市内のつながりだけではなく、市と関連するより広域の地域間のつながりや、市外や県外そして海外とのつながりも含む必要があると思います。その意味では、「人々がつながり」あるいは「多様な人のつながり」などのより具体的な表現が望ましい。 「未来につなぐ」は、次世代に向けて持続可能な社会を構築することを意味しており、これまでの現状を単に継承するだけでは実現できない。より積極的に未来につなぐため、「未来を創る」や「未来を創造する」というより積極的な表現が望ましい。 「緑豊かな」の説明がないが、現在の自然環境を維持するだけではなく、様々な環境問題を積極的に解決して真に「緑(自然)豊かな」地域を行政や市民が主体的に構築する必要がある。 「笑顔があふれるまち」は、安心して明るく暮らせるまちの姿を表面的に表すだけではなく、喜び、希望や活気があふれるまちづくりを目指すというビジョンを示す必要がある。「幸福」という基本理念を含めると良いと考える。
101	(2) 第2章「基本理念」 「誇りと愛着」は、より個人的な意識であり、八千代市の基本理念としては、不明確である。次世代にわたり基本的な生活や環境が維持されるために主体的に取り組む必要があることとして、「持続可能なまちづくり」などを基本理念にすべきである。 「共生と自立」もあいまいな基本理念である。市民やコミュニティ、行政がパートナーとして主体的に「協働」することが重要であり、地域の資源や課題を共有してその活用や解決に取り組む必要がある。 「安心と安全」では、現世代や自分自身の安心と安全という狭い理念ではなく、より広く様々な主体が協調・協力することで、強靱(レジリエント)で持続可能(サステイナブル)な地域をつくる必要がある。
102	(3) 第3章「5つの柱」のうち第4節「快適で環境にやさしいまちづくり」 「都市環境」や「都市機能」という概念があいまいで、様々なインフラを含む地域の環境を構築して維持する具体的な記述が必要である。ここでは「持続可能なまちづくり」として、長期的な気候変動問題への積極的な対応と地球温暖化への適応を含めるべきである。この気候変動問題への対応としては、長期的なビジョンとして「ゼロカーボンシティ宣言」や「気候非常事態宣言」などを含むことが望ましい。エネルギーを地域で主体的に扱うことも重要であり、単なる「環境負荷の低減」ではなく、より具体的な「脱炭素化」や自然エネルギー(再生可能エネルギー)100%というビジョンをもち、具体的な取り組みを市民・事業者・行政が行う必要がある。循環型社会の形成においても、従来の3Rの取り組みだけではなく、エネルギーとしての利活用やゼロエミッションに向けた取り組みを含める必要がある。

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
103	基本構想の計画期間が、令和3年(2021)年度から、令和10年(2028)年度までとしていますが、向こう7年間の期間、現在、八千代市が置かれている財政状況などを考慮すると種々の問題点が指摘されます。 八千代市の将来像の実現に向けた5つの柱を掲げていますが、第2節 豊かな心と文化を育むまちづくり、第3節 安心・安全に暮らせるまちづくり、謳い文句は立派ですが、そう言ったことは財政が豊かでなければ実現できません。
104	「新庁舎建て替え建設計画」は見直しを。今回、村上南小学校・萱田小学校・萱田中学校等の体育館の雨漏りで、前述の予算をそちらに廻すため、1~2年の積立金の延期ということですが、単に延期でなく、現在の八千代市の置かれている財政状況から、身の丈にあった相応の庁舎計画に考え直すべき。
105	新庁舎に関して云えば・・・, 将来人口の減少が予想される中、何故、現在の市庁舎より大きな面積にする必要があるのか。
106	他の公共施設の耐震化を要するのは急務(公共施設の老朽化, 多くの施設が築40年を経過) 耐震化を推進する施設 9施設(清掃センター・高津南保育園・消防団第4分団等) 休止・廃止する施設 6施設(少年自然の家・八千代台図書館・八千代台自治会館等) これらに留まらず小中学校・公民館等の大幅な改修・補修は、地域に根ざした施設でありまた、子供達の教育環境の改善は急務 第4章 施策の大綱 子供・子育てを謳っているが、小生の住む「高津南保育園」などは、あまりに施設として貧弱です。これでは子供が可哀想です。 必然性のない「農業ふれあいの郷」の建設・総合グラウンド・中央図書館、いずれも財政が潤沢にある自治体が持つものです。それらの建設により他の公共施設の改修等が維持できなければ、それを利用する地域の市民・子供たちにとって不利益を被るわけです。
107	パブコメを募集するのは良いが、聞きっぱなしというポーズだけではなく、少しでも市民の意見を受け入れて実現に向けた行動を起こさない限り、市民に諦められてしまうのでは。
108	第4節 快適で環境に優しいまちづくり 1. 市街地・住環境の整備, 道路, 2. 総合交通, 道路環境の整備, 地域の実情に即した, 交通ネットワーク等も謳われていますが、高津地区は、市役所・市民会館・医療センターに行く直接の交通手段がありません。それらは生活の足として強く要望するものです。 また、住宅街の道路は「生活道路」ということで補修・改修の優先順位は一番低いということですが、私たちの街も発足して45年、この間、大掛かりな道路の補修は行なわれていません。八千代市の道路はどこも同じような状況です。それらに廻す予算も十分考慮して戴きたい。
109	緑が丘区域に中学校を設立して欲しいです。今ある中学校は遠く、安心して通わせられません。
110	網羅的にはスローガン、お題目は良いでしょう。どこの自治体に持っていつても使える、逆に言えば八千代市の特色が見られない内容です。具体的に何を、何のために、いつまでに実施するのか、実行計画まで素早く落として、そこから議論されることを期待します。現在の服部市長の任期中にぜひ具体的な形を見せてほしいです。
111	8年の基本構想なので、全て望ましい姿になっていますが、八千代市の地政的な構造を具体的に分析した上で、各章ごとに具体的な施策を、表明することを望みます。人口の3パーセントに達している外国に関わる住民について、対策を表明するように要求します。
112	第3章「将来都市像の実現に向けた5つの柱」、第3節「安心・安全に暮らせるまちづくり」 【提案】勝田台駅北口駅前広場の無電柱化事業 勝田台駅は、京成と東葉高速鉄道の2路線が交差する利便性により一日の乗降者数が8万人を超え、また市内に6カ所ある防火地域の東の拠点として、防災機能の確保と向上を図る必要があると考えます。 千葉県では、当該地区の安全かつ円滑な交通の確保、都市景観や都市防災性の向上を図るため、令和2年より勝田台駅北口の国道296号において、既に電柱の地中化事業が始まっています。この国道整備に合わせ、駅前広場の電柱を地下化することで、エリア全体の防災機能がより強固になります。 是非、八千代市第5次基本構想に「勝田台駅北口駅前広場の無電柱化事業」を盛り込んでいただきたく、ご検討のほど何卒よろしくお願い申し上げます。
113	人がつながり 未来につなぐ 第4次よりふくらんで、とても素敵なフレーズだと思います。 つながる、つなげる 行政(市・県・国)と市民、商業と住民、文化と商業、農業と商業・企業と自治体、過去未来、挙げればきりが無いほど色々なつながりがあると思います。これにもうひとつ、市としての役割を担っていただきたいものとして、「近隣・隣接する市とのつながり、機能・機関の充実だけではなくイメージアップにも取り組む」ことが謳われているとさらに未来は広がり開かれた行政のイメージになると思いました。 京成電鉄・東葉高速鉄道・国道16・296号・新川と地理的にも他市とのつながりは外せません。 船橋・習志野・八千代市・佐倉市と商業・観光などで連携をとり、京成・東葉高速の住みたい街としてイメージアップを図る。 八千代市のみならず鉄道沿線の活性化をうながす取り組みを少しでも盛り込んでほしいと思います。 第5次基本構想に鉄道を巻き込んだ他市連携の地域政策とイメージアップの取り組みの文言を盛り込んでいただけると希望します。 ※都内方向の導線はありますが、柏や千葉など千葉県横断の導線はやはり少ないように思います。これも計画にい入れられないのでしょうか。

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
114	昔の野山を開発し、中央に、新しいタイプの住宅地がひろがって、新旧両住民の感情には、まだまだ隔たりがみられるように思います。新旧住民のひと頑張りが必要に思います。「わが街 八千代 われらのふるさと 新旧両民 心を合わせ 力強い地域をつくる」という言葉が、口からほとぼり出ました。
115	【1】「第6章 土地利用の基本的な方針」 この内容はこれから策定される「都市マスタープラン」の基本的方針にリンクするものです。しかしながら基本構想(素案)では (1)資源的特性 (2)社会的特性 という現状を示しただけでこれからの基本方針を示しておりません。 最新の都市計画運用指針の29 ページに市町村マスタープランについて解説があり ・土地利用 ・各種施設の整備の目標 ・生活像、産業構造、都市交通、自然的環境等 「現況及び動向を勘案した将来ビジョンを明確にすることが望ましい」とあります。 従って第5 次基本構想においてその概略を掲載すべきと考えます。
116	【2】基本計画(素案)のパブリックコメントの時期 11 月にパブリックコメントを実施すると説明されておりました。その後8 月31 日にHP 上に掲載された「八千代市第5次総合計画について」では令和2 年度のスケジュールに令和2 年度下半期に基本計画(素案)パブリックコメントとあります。前後の文脈から1 月～2 月と読めます。誤解のないよう実施時期を改めてご提示ください。
117	【3】総合計画の1 年延期 近隣市で令和3 年度に開始予定の総合計画を1 年延期する決定を下した自治体があります。コロナによる影響を鑑みた選択です。八千代市においてはコロナの影響もさることながら課題抽出が十分に行われていないことから1 年延期をご提案します。
118	誇りを持って活躍する、故郷に愛着をもてるようにと言う点は賛成です。しかし、グローバルを歌っていますが、グローバルとはグローバリストが日本を支配するために広めたプロパガンダです。先ず、日本人としての誇りを取り戻す。人としての柱あってこそ、世界から国際人として認められます。日本人とは何か？その柱無くしては世界から認め信頼されません。国際化はあり得ません。移民、外国人労働者を増やすことには断固反対です。差別はしませんし尊重はしますが、働かず日本から生保を貰うために来る外国人は祖国に帰すべきです。甘えた外国人本人の為にもなりません。甘えた人生は良い人生ではありません。現実をしっかりと見据えて計画をするべきです。
119	1. 基本構想は従来10年でした。今回なぜ8年になったのかご説明ください。
120	2. 基本計画が4年ごとです。スタート年次の5月には市長選挙が実施されます。市民の声を反映するためには組換えが必要ですがどのような体制を考えているか示してください。特に市長が交代となればマニフェストの実現のためにも大幅な変更も視野に入れる必要があります。市民に開かれた行政運営を標榜するのであれば避けて通れない対応とします。
121	3. 他の自治体のプロセスに比べると市民への十分な説明がなく、第5章第1節の「市民にわかりやすいまちづくりの推進」に矛盾しませんか。
122	4. 基本構想とは本来長期に渡るまちづくりの方向性を示すものではないでしょうか。従って期間を定めるものではなく必要があれば逐次修正を加える構造にすべきと考えますがいかがでしょうか。期間を定めない自治体としては流山市や福山市があります。
123	5. 将来都市像に表現された「緑豊かな」の説明がありません。説明を加えてください。
124	6. 将来都市像は市民の想いを表現するものと思います。是非八千代らしさを対外的にアピールするキーワードを入れてもらえないでしょうか。例えば、八千代花と緑の応援団が目標とされている“バラ街道”は大変素晴らしい取り組みかと思えます。八千代市にたくさんのバラ街道を作り、行政・民間も一眼となったバラの街をアピールしてほしいと思います。
125	7. 八千代市はすべてにおいてそこそこ中庸な街です。都会でもなく田舎でもない街です。いい表現にするとリラックス出来る街、ほど良い街と言えらると思います。これをおしゃれな表現として「ロゼシティ」を提案します。バラ街道にもリンクします。ロゼは白でもなく赤でもなくピンクです。またバラ色というイメージがあります。間接的にバラの街を彷彿させます。
126	8. 少子化・高齢化に対応する、八千代版のコンパクトシティについて検討する必要があるかと思いますがいかがでしょうか。
127	9. 公共施設の最適化が急務と考えます。平成26年の有識者会議による提言では今後40年間における公共施設の更新・大規模改修費用の不足を解消するために、公共施設の約27% (中央図書館、市民ギャラリー建設前の段階での数値)を削減する必要があるとしています。第5次総合計画ではどの程度削減するのでしょうか。基本構想の段階から定量的な数値目標を掲げてください。
128	10. 市内の公共施設の60%は学校です。他の自治体に比べると比率が多く、統廃合の議論が必要になるかと思えます。今後の統廃合を見据えた基本構想とする必要があるのではないのでしょうか。

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
129	11. ウィズコロナ、ポストコロナに関する記述が基本構想ではありません。コロナ収束後も同様の感染症によるパンデミックにより市民の暮らしを脅かす必要があるかと思えます。市民の安心・安全のために感染症における記述をすべきではないでしょうか。
130	12. ウィズコロナ、ポストコロナにおいて、市職員・市民の働き方改革における記述を入れるべきではないでしょうか。(テレワーク等)
131	13. 市内外への情報発信の記述があります。どのような情報発信を今後するのでしょうか。現在の八千代市の情報発信は十分ではないと理解しておりますので、今とは異なる情報発信の方法を検討し、記述すべきかと思えます。
132	14. この基本構想には、市長への想いはどこにあるのでしょうか。この基本構想を見て、ワクワクするような八千代市ビジョンが浮かびませんか？いかがでしょうか。
133	15. 第4次基本構想では将来都市像実現のために6つの柱を設定しました。なぜ6つから5つになったのでしょうか。削除された「快適生活」に相当する部分は曖昧になっておりますのでは柱を追加すべきと思えます。
134	16. 従来から話題になっていたSociety5.0、DXなどのデジタル化のテーマは急浮上した感染症対策の一貫として各地で急遽取り上げられております。これらはすべての柱に関係がありますので「新未来対応のまちづくり」(新しい生活様式に対応したまちづくり)として柱の追加をご検討下さい。
135	17. 安心・安全に暮らせるまちづくりにおいて重要なライフラインは上下水道だけではなくありません。電気・ガスなどのエネルギーについてもライフラインとして提案が必要ではないでしょうか。
136	18. 産業が元気なまちづくりにおいて「観光」がありません。4次基本構想では存在しておりました。他の項目で触れている部分がありますが産業分野で語る必要があるのではないのでしょうか。
137	19. 市民にわかりやすいまちづくりの推進とあります。基本構想のパブコメに関して言えば将来都市像の策定過程、基本構想の策定過程が市民に理解しやすい方法(フロー図や参考意見等)で逐次情報公開がなされておられません。
138	20. 「持続可能な行政経営の確立」とあります。まさにSDGsを正面から立ち向かう姿勢を示していると思えます。「SDGs 未来都市」とか「拡充から縮充」「公共施設の総量からサービスの質へ」「ゼロカーボンシティ」と言ったキーワードを用いながらより具体的な施策を書き加えてください。
139	21. 「地産地消」も重要ですが、食べる食材は八千代市のものを使うという「地産地消」の考え方を基本構想に入れ広めることが重要ではないでしょうか。
140	22. 八千代市の名産のアピールを加えるべきではないでしょうか。八千代市の梨はレベルも高く、にんじんを用いたドレッシングやジャム、古代米などが農産物としてはアピールポイントかと思えます。
141	23. 本年八千代市は当初より早く20万人に達しましたが、最新の統計では人口ピークは2025年に前倒しになっております。人口減少を抑制する施策の検討を基本構想内に追記を検討ください。
142	24. 八千代市は生産年齢世代の転出が多いため、転出を防ぐための方法を基本構想で記載すべきではないでしょうか。
143	25. 八千代市からの転出を防ぐために、市外へのアピールも重要ですが、市内に対しての八千代市のアピールも必要なのではないでしょうか。基本構想にてお考えください
144	26. パブコメに必要な資料が散在しており、建設的な意見を集約するためには余計な負担をかけております。市民とのつながりを持ちたいと思っておりますとは到底思えません。改善を希望します。
145	27. 八千代市の良さが基本構想に出ていません。専門家の手が入っているのかもしれませんが、そのため八千代市に実際に住んでいる人がわかる八千代市の良さ出ていないように感じます。分析は十分に行われていますか。八千代市に住む方の意見が反映されている本当の八千代市版の基本構想を考えていただけませんか。
146	28. 第2章 第2節で教育のことについて触れておりますが、学力レベルの向上も重要な課題と思えます。八千代市の学力レベルは「令和元年度」の全国学力テストの結果を見るとほぼ平均のようです。学力レベルを上げることが全てではありませんが、私立の学校への進学を余儀なくされている家庭も多く知っておりますので、市内の学力レベル向上も他市への転出を抑制する上で、重要な課題であると考えますがいかがでしょうか。教育レベルの向上についてもご検討ください。
147	29. 八千代市の特徴として地域ごとに人口動態データに差があります。この違いを可視化するために客観的データに基づく詳細な分析が必要と感じております。(コーホート分析) その一例として5歳階級別人口推移のデータ分析を提案させていただきます。提示させていただいたグラフは八千代市全体ですが、地域ごと、丁目ごとに分析しますと一段と異なるまちの姿が浮かんできます。このグラフから世代間の課題、地域間の課題が抽出できますので基本構想に反映してください。
148	30. 基本構想の中で、市民と行政との交流について記載されておりますが、八千代市の基本構想への意見募集のページを見ても市民と本当に交流を持ちたいのか疑問に思います。

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
149	資料としてPDF を貼るだけではなく、習志野市や他市のようにHP上に市民にわかりやすい形で基本構想の位置づけを明確に示してください。情報提供・情報共有において、基本構想案の意見を募集する段階にまで達していないように感じます。
150	<p>◆人口減少・超高齢社会、コロナ危機、気候危機の現実はどう向合うのか。SDGsや脱炭素社会の実現に向けて、どのような都市像を目指し、何を柱に取り組みのか。明確なビジョンの策定を◆</p> <p>日本では既に「人口減少・少子超高齢化」がはじまっています。2008年の1億2808万人をピークに人口が減少しており、社会の転換点に突入しつつあります。</p> <p>本市では人口ピークは本年3月の推計では2025年と確実に人口減少局面が近づきつつあり、5次基本構想期間の途中で減少フェーズに入ることが見込まれています。だからこそ、この問題に最大限向き合う、これまでの基本構想から転換するビジョンを掲げることが必要です。</p> <p>また今、世界は「コロナ危機」と「気候危機」の只中にあります。新型コロナウイルス感染症による感染者は世界で今なお増え続けています。そして同時に、多発する気象災害も世界各地で猛威をふるいその被害は大変深刻です。いずれも人々の暮らしや命を脅かし、そして経済や社会にも大きな影響を与えています。</p> <p>しかし、そんな中でも世界では「持続可能な社会」を目指し、ウィズ&amp;ポストコロナとしてテレワークやリモート会議、オンライン教育など新しいライフスタイルへの転換に向かい、脱炭素社会へ再生可能エネルギーを軸とした社会経済活動への変革に動き出しています。今年にはコロナ禍によって世界全体のCO2排出量は8%減と見込まれていますが、これだけ世界が活動を自粛しても8%しか減らない現実。活動自粛や省エネの取組みだけではとても足りないことが明らかとなり、CO2を排出しない自然エネルギーへの転換・拡大が急務となっています。</p> <p>そして、こういった世界規模の課題に対して、2015年国連にて17の世界の共通目標「SDGs」が掲げられ、2030年に向けてこの目標を実現すべく全世界のあらゆる主体が動き出しています。これら「地球規模の持続可能性」に向けた取組みは、今やあらゆる主体に求められる社会経済活動のメインテーマになりつつあります。日本も千葉も八千代も例外なく社会の要請となりつつあります。取組みがその自治体の持続可能性に繋がります。脱炭素や自然エネルギー社会へ向けた施策は省エネルギー・再生可能エネルギーの推進はもとより、調達電力のRE100電気やCO2ゼロ電気への切替えや、電力切替をさらに促進する「自治体新電力」設立など、既に地方から先進自治体を中心に具体的な取組みが行われつつあります。</p> <p>これらの取組みは気候危機への対策のみならず、地産地消のエネルギー循環を生み出すことによる地域経済循環を作り出し、人口減少・少子超高齢化が進む未来に向けての地域活性化、まちづくりの切り札に間違いなく繋がります。人口減少・超高齢社会、コロナ危機、気候危機の現実にしきんと向き合い、SDGsや脱炭素社会の実現を目指して、街としてのビジョンを描き、自治体として出来ることに最大限取組む。これまで「これからこれから」へ間違いなく転換が必要です。これら課題はあまりに大きなものですが、これらに向き合い1歩ずつ「未来に向けた取組み」を進めることで、私たちの街・八千代の「明るい未来」は拓けると確信しています。</p> <p>以上のことより、第5次基本構想には「八千代の未来ビジョン」として、人口減少・超高齢社会、コロナ危機、気候危機の現実はどう向合うのか。SDGsや脱炭素社会の実現、未来へ続く八千代に向けて、どのような都市像を目指し、何を柱に取り組みのか。明確なビジョンとしてキーワードとしてでも明記することを提案します。</p>
151	<p>(1)第1章 将来都市像</p> <p>① 本市の目指すべきまちの姿とは、本市ならではの「都市と自然の優れたバランス」、活発な市民活動、市民協働の取組み、新川、バラ、千本桜などの緑豊かな自然の地域資源、「自然を活かした体験型教育」などの強みや特性を有効に活用し、八千代ならではの「キラリと光る」ものに磨き上げ、市民の誰もが未来への希望を感じ、生涯にわたり誇りや愛着をもって、このまちに住んでいたいと思える「未来へつづくふるさと八千代」なのではないでしょうか。そういったまちづくりを進めることで、現在の大きな課題でもある定住率の低い若年世代の流出を抑え、仮に一時的に市外に出てもまたライフサイクルに合わせて市内に戻ってくるような「ふるさと八千代」を目指すことで、人口減少や超高齢化に向合うことができるのではないのでしょうか。</p> <p>本市「八千代市」の命名の由来でもある「千代に八千代に」に込められた想いにもある、千年も幾千年も「未来へつづく八千代」につながるような将来都市像として頂けるように要望します。</p> <p>私から一案として以下を提案致します。ご検討下さい。</p> <p>『“そこそこ都会そこそこ田舎”キラリと光る未来へつづくふるさと八千代』</p>
152	<p>(2)第2章 基本理念</p> <p>① (1)の将来都市像を踏まえ、その実現へ向けた「基本理念」について、現素案では3点「誇りと愛着」「共生と自立」「安心と安全」が挙げられていますが、これからのメインテーマでもある「持続可能性」「未来へつづく八千代」を踏まえて、もう1点「継続と持続」を加えることを提案します。</p> <p>「継続と持続」本市のこれまでの強みや特性を継続し、より有効に活用し持続可能なものとする事で、市民の誰もが未来への希望を感じ、住み続けたいと思えるまちづくりを推進します。</p>
153	<p>(3)第3章 将来都市像の実現に向けた5つの柱」及び 第4章施策の大綱</p> <p>① 「コロナ危機」を受け、ウィズコロナ・ポストコロナとして社会変革が進みつつあります。デジタル技術を活用したテレワークやリモート会議、サテライトオフィス化などが進められつつあり、オフィスを持たない企業なども現れ、企業そのもののあり方が変わるような働き方改革が進みつつあります。この社会変革の動きは間違いなく、公共サービスや公共交通のあり方にも大きく変革をもたらすと考えられます。ウィズコロナ、ポストコロナを踏まえ、デジタルトランスフォーメーションを見ずえた新しい働き方や、公共サービス、公共交通」を目指すビジョンを掲げることを提案します。</p>
154	<p>② 「コロナ危機」を受けて、GIGAスクール構想をはじめICTやオンライン教育環境を活用してより本来の学び「自ら考える力、主体的・対話的深い学び」に繋げる新しい教育への変革が進みつつあります。これら社会変革を見据えたビジョン・柱を掲げ、本市の掲げる教育目標「未来を拓き豊かに生きる人間を育む」取組みを更に進める八千代ならではの教育施策に繋げていくことを提案します。</p>

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
155	③ 「コロナ危機」に直面し、市民の命・健康・安全安心を守るために「保健行政の重要性」が再確認された。感染症に対する相談受付、検査業務、医療・検査機関への振分、自宅待機・療養・入院などの振分、疫学調査並びに感染者情報の把握・情報公開・情報発信などいずれも市民生活に直結します。本市のような一般市において保健行政は県の所管となるが、人口20万以上の中核市となれば、自前で保健所を設置し業務を遂行することができます。本市も人口20万人を越え中核市要件を満たした中で「未来を見据えた保健行政のあり方」中核市指定への考え方を検討していくことも必要と考えます。
156	④ 「快適で環境にやさしいまちづくり」の中で「環境負荷の低減が求められている」とありますが、「気候危機」に直面する世界では、更なる温暖化による危機を招かないために、2030年にはCO2を半減、2050年には実質ゼロを目指す必要があるとされています。日本政府においてもこの目標実現を目指して、環境省では2050年までにCO2排出量を実質ゼロとすることを表明する地方公共団体を「ゼロカーボンシティ」として推進し、既に150以上の団体が認定されています。本市においても、ゼロカーボンシティを表明し、合わせてその実現に向けたRE100(再生可能エネルギー100%)や「ちよ」をビジョンとして掲げ、施策として推進することを提案します。
157	⑤ ④の「ゼロカーボンシティ」「RE100」実現に向けた施策は、省エネルギー・再生可能エネルギーの推進はもとより、調達電力のRE100電気やCO2ゼロ電気への切替えや、電力切替をさらに促進する「自治体新電力」設立など、既に先進自治体で行われているものでもあり、これらは気候危機への対策のみならず、地産地消のエネルギー循環を生み出すことによる地域経済循環を作り出し、人口減少・少子超高齢化が進む未来に向けての地域活性化、まちづくりの切り札に間違いなく考えます。 本市でも市外に流出しているエネルギー支出は600億円以上あり、自治体新電力を軸に市内循環させることで地域活性化の効果は計り知れません。また、もちろん太陽光発電などの活用によって災害時非常電源の確保につながり「災害に強いまちづくり」にも間違いなくつながります。ゼロカーボンシティ RE100実現に向けた気候変動・エネルギー政策は、環境政策であると同時に、経済・産業政策でもあり、防災・災害対策にもなり、また後述するSDGsの実現にもつながると考える。未来につづくふるさと八千代実現に向けたビジョン・施策の柱として 第3節 第4節 第5節 横断的に掲げることを提案します。
158	⑥ 「豊かな心と文化を育むまちづくり」として「教育」について施策が掲げられていますが、本市では教育目標「未来を拓き豊かに生きる人間を育む」のもと、重点目標としてESD(SDGsの担い手を育てる教育)の推進を掲げ、教育を核とした持続可能な地域社会を構築するとして、ユネスコスクール推進校指定を進めるなど素晴らしい教育を進めていると認識しています。またそれらにつながる施策として、八千代ならではの自然環境を活用した「少年自然の家」での体験型教育を通じて「自ら考える力、仲間と協力する力」を育て教育目標実現に繋げています。これら素晴らしい「教育」を継続しながら、学校の屋上を活用した太陽光発電を軸とした「エコスクールプラス」等の新たな施策を進めることを提案します。この施策は「環境教育」であると同時に、「環境政策」「公共施設マネジメント」「新たな歳入確保」「避難所の災害時電源として防災能力向上」にも繋がります。
159	(4)第5章 構想の推進のために」に関連する意見 ① 人口減少・超高齢化に向き合うには、20～40代の若年世代の定住率が低く流出人口が多いという本市の特徴に着目し、「市民」に対してまちの魅力を高める取組みにフォーカスしていくこと、市民の流出人口を減らし定住率を上げる、仮に一時的に市外に出てもまたライフサイクルに合わせて市内に戻ってくるような「ふるさとやちよ」を目指していくことを提案するがどうでしょうか。シビックプライドの醸成がキーワードだと考えます。「市民」にフォーカスすることで結果的に市外への魅力発信にもつながっていくと考えます。
160	② 「持続可能な世界への共通目標であるSDGsに施策を関連させる」とあるが、SDGsの実現を目指すと共に、SDGsへの取組みを「未来へつづくやちよ」の持続可能性により積極的につなげるために、日本政府が進める自治体の認定制度「SDGs未来都市」認定を目指すことをビジョンとして掲げることを提案します。政府の認定を受けることで多方面の支援が期待でき、本市の持続可能性が間違いなく高まると考えます。
161	③ 「多様性のあるまちづくりの推進と魅力発信」の中に、「地域の観光資源の魅力を様々な機会を通じて発信しながら…」とあるが、本市の観光資源は様々にありますがあれもこれもではなく強みを生かす意味で「新川、バラ、千本桜などの緑豊かな自然の地域資源」を明記するべきではないでしょうか。これらにフォーカスして、市民協働で魅力を積極的に創り出していくことが大事だと考えます。その旨追記頂くように指摘しておきます。
162	④ 「人口減少・少子高齢化の進行により税収の減収や社会保障費の増加などが懸念」される中、記載されているデジタルトランスフォーメーション(DX)による生産性、効率性向上はもちろんですが、あらたな歳入確保の軸を創出し、歳出の適正化、選択と集中を図る行財政改革のビジョンが必要ではないでしょうか。また、公共施設のマネジメントについても「圧倒的財源不足」が見込まれている点や、施設からサービスへ、拡充から縮充へ、民間活用・歳入確保の推進などへの「転換」の視点も盛り込み「未来を見据えた最適な公共サービス」へのビジョンを掲げることが必要ではないでしょうか。
163	⑤ ③における「民間活用・歳入確保の推進」と共に、前述した「ゼロカーボンシティ」や「RE100」のビジョンに繋げる施策として、建替えが計画されている最大の公共施設「市庁舎」を中心に、ZEB(ネットゼロエネルギービルディング)化や、大規模ソーラー発電の設置などの施策に取り組むこと。また、東京都豊島区の「実質0円区庁舎方式」のような民間活用・公有資産活用によって、「未来を見据えた最適な公共サービス」のビジョンに繋げることを提案します。
164	⑥ また同様に「民間活用・歳入確保の推進」では、セカンドスクール「少年自然の家」を民間活力による運営として経費を縮減、これまでの八千代ならではの学校利用は継続しながら、それ以外の土日やふくめて使用されていない時間を一般利用を可能とし、本市ならではの自然環境を活用し、周辺の新川流域エリアと一体となったエリアマネジメントによって、施設の魅力を高めて収益性を確保して、「新少年自然の家」として存続させ、本市の魅力創出につなげることを提案しますが。

◆パブリックコメントの意見概要(未定稿)

No	意見の概要
165	⑦ 第5章には4つの節のうち2つに「市民に分かりやすいまちづくりの推進」「地域の視点にたったまちづくりの推進」という「市民協働」に関わるビジョンが掲げられています。まさに、これからの八千代の未来には、行政主導から市民協働への転換が求められると考えます。そのためにも地域コミュニティ推進計画で掲げられたまちづくり市民会議のような市民参加の基盤づくりと共に、そういった場での市民意見を政策決定に反映させるためのまちづくりの仕組み 自治基本条例」の策定等が必要なのではないでしょうか。市民協働推進へのビジョン掲出を提案します。
166	⑧ また⑥にあるように「市民協働のまちづくり」を推進するという上において、今回この「第5次基本構想」策定にあたっていきなりパブリックコメントが行われていること自体がどうなのでしょう。政策形成過程における市民参加を促進するのであれば、市民意見を頂くワークショップやシンポジウムの機会が必要なのではないでしょうか。コロナ禍でできないというなら、それこそデジタル技術を活用して、オンラインでのウェビナーでの開催だって可能です。市民参加の取組を検討するよう要望します。
167	(5)第6章 土地利用の基本的な方針 ① 人口減少・超高齢化の課題に対して、本市の市街化区域/市街化調整区域の「50-50」の考え方を継続・徹底しつつ、駅周辺部を中心に有効な土地利用を推進する コンパクトシティやちよ」を基本方針、ビジョンとして提案しますがいかがでしょうか。
168	将来都市像について 持続可能を意識した、全ての市民、とりわけ子どもや教育を連想させる良いものだと思います。しかし、解説や理念は当たり障りのない、熱意があまり伝わらないものに感じました。それは言い換えれば、地味だけれども、それぞれの部署が柔軟な発想で試行錯誤できればよいものになるのかもしれないとも思いました。
169	新型コロナについて一言も触れていないことに違和感を覚えました。前文をつけるか、最初の章にでも、市としての思いを加える事は出来ないのでしょうか。多くの人が自分たちの暮らし方について問い直すきっかけになったと思います。特に教育や働き方について。今まで通りやこれまでの延長で本当によいのでしょうか？
170	これまでも、目標やスローガンはよいのですが、実態がなかなか追いつかないというか、頑張っておられる職員さんもたくさんいるのですが、市民や子どもたちが頑張ろうとしていることを応援してもらえないと感じる事がたびたびありました。目標やスローガンの真の意味を末端まで行き渡らせるのは難しいかもしれませんが、頑張ってください。
171	市民が共に支えあう 市民が主体という文章もありますが、例えばすてっぷ21の利用で、市境の友達親子と遊びに来たら市外の人は断られたり、ご近所の子どもの預かって遊びに行くと、保護者でないと利用できないと言われたり、小学校就学前の春休みに行くと幼児でないからだめと言われたり・・・もう少し優しくなってほしいです。
172	多様性を認め合うについて 学校だけの問題ではなく、私も含めすべての大人の意識ですが、子どもに対する同調圧力の強さをどうかしないといけません。
173	農業について 持続可能な視点と、健康、安心、安全の視点からも、無農薬有機栽培農家を応援してほしい。子どもたちの給食に月に一度でも取り入れてほしい。
174	基本構想の第3章第2節にある文化についての提言 基本構想の文化に関して深く賛同します。ぜひ八千代市が文化活動が積極的な市として成長していくことを願います。具体的に、文化活動を支える予算の確保のために1%for Art(1パーセント・フォー・アート)の導入を提言します。公共事業建設費の1%をアートに回そう という制度です。1950年代のフランスで提唱され実際に導入されて、以降ヨーロッパ諸国1980年代には韓国でそして現在は台湾でも導入されている文化のための財源確保の制度です。公共事業の建設費の1%(厳密には0.5%~2%の平均値として)を充てることで財源を確保することは、ただの予算確保だけではなく、アートを導入して市の資産価値を30%あげられる、という側面があることが言われています。具体的な運用は永続作品、一時的作品の制作等に充てるのみならず文化財産の管理運用にまで応用されています。八千代市で導入することは全国的にも注目される取り組みとなります。ご検討ください。

【別表】

10. 課題の概観

※現在の構成を追認したわけではありません。

課題	現状	対応してほしい方向性
将来都市像	告知したのみ	・市民のコンセンサスを取りましょう ・みんなでビジョンを考えるという姿勢が必要です。 ・他の検討案を提示してください、決定に至った過程も提示してください ・「将来都市像」は都市マスタープランや国土強靱化地域計画の共通した目標となるはずで、十分に時間をかけて検討すべきと思います。 ・人口ビジョン・都市空間・財政は前提条件として共有が必要です。
実現に向けた5つの柱	現状の問題点が十分に抽出されていません。 そのため課題解決の鍵が発見出来ていません	難しいけど何とかしたいことを徹底的に洗い出します 柱を2つ追加 10.修正案一覧表にて
施策の大綱	解決の鍵を形式的に列挙	主要な計画との構成を明確にする必要があります。 ・総合戦略 ・都市マスタープラン ・国土強靱化地域計画 ・公共施設等個別施設計画 ・地域福祉計画 など
構想推進のために	ざっくりとした事業計画の羅列	基本計画につなぐ事業体系が網羅されていません。

11. 修正案一覧表

※全面的な見直しが必要です。もし項目の中で採用された場合の修正事項です。

章・節	項目	現状	修正案
前段	基本構想の前に		総合計画の位置づけ 総合計画の期間 基本理念
1章	将来都市像	人がつながり 未来につなぐ 緑豊かな 笑顔あふれるまち やちよ	未来の笑顔が描ける ロゼシティ やちよ
1章	計画期間	※で掲載	削除して前段で掲載
2章	基本理念	掲載場所 基本的な理念を、次の通り定めます。	削除して前段で掲載 第4次総合計画を引き継ぎ基本理念とします。
3章	将来都市像の実現に向けた5つの柱	新規挿入	目標を実現するための前提条件が必要 1. 人口ビジョン 2. 都市空間 3. 財政運営 柱を5→7に変更
3-2節	2行目	心の豊かさ	心のバリアフリー(注1)
3-3節		新規挿入	地域のレジリエンスを向上させる
3-4節		新規挿入	農村と都市のメリットが調和した形で活かせる社会の構築、いわゆる田園都市国家構想を目指します(注2)
3-5節		新規挿入	リモートワーク等働き方改革に努める
3-6節 新規	ユニバーサルデザイン	新規設定(注3)	・心のバリアフリー ・まちづくりのユニバーサルデザイン
3-7節 新規	未来投資戦略(ポスト・コロナを踏まえたまちづくり(注4))	新規設定	デジタル・トランスフォーメーション(DX)を通じて社会全体の未来技術の実装 I)地域経済・生活の再興 II)新たな日常に対応した地域経済の構築
4章	別掲		
5章	構想の推進のために	新規挿入	重点プロジェクトとして各種主要な計画との関係を明示する 想定される主要な計画 ・公共施設等個別計画 ・地方創生総合戦略 ・国土強靱化地域計画 ・マスタープラン ・地域福祉計画 等 この章は将来都市像を達成するための目標と目標を支える都市経営の基盤整備の観点から構成されるべき
5-1節	6行目	政策形成過程への	政策形成初期段階での



5-2節	4行目	市民活動団体などが主体となった活動を継続的に支援して	市民活動団体から発する地域課題から課題解決案を汲み上げる仕組みを構築します。
5-3節	7行目	積極的に効果的なシティセールスを展開し	「全国移住ナビ」などの外部発信ツールを活用し
5-4節	3行目	行政全体を最適化することで	具体的な記述が必要 1)人的資源 外部登用を含めて職員の経営手腕が発揮できるよう教育体制を確立します。 また、政府が提供しているelearningのResas や地方創生カレッジを活用し職員のみならず市民へ啓蒙することでオール八千代として課題解決に取り組みます。 2)経営資源(見出しのみ) 公共施設の再生計画 財政健全化計画 DX(Society5.0対応と働き方改革など) 協働社会の確立 など
6章	土地利用の基本的な方針	この章を削除し別掲 5行目 6行目 大規模自然災害に備えた	「第3章の将来都市像の実現に向けた5つの柱」においてこの章の実現のための前提条件の一つとして「都市空間」として掲載人口減少・少子高齢化が具体的にどのような課題を抱えるのか市民に説明しましょう。 国土強靱化地域計画に則した

用語の詳細を希望します。特に4章の記載が漠然としています。  
市民に分かりやすく伝えるためには出来るだけ例示した方がよいと思います。

章・節	項目	現状	修正案
4-1-2	地域福祉4行目	地域共生社会の実現を目指します。	「地域共生社会」という専門用語が登場しました。 この骨子は4つの柱 1. 地域課題の解決力の強化 2. 地域丸ごとのつながりの強化 3. 地域を基盤とする包括的支援の強化 4. 専門人材の機能強化・最大活用 です。 注釈をつけるなどより詳しい説明をしませんと市民は全く理解できないと思います。
4-2-1	教育6行目	市内の高等学校・大学との連携を働きかけ、教育を通じたまちづくりを目指します。	サービス・ラーニングを意味しているのでしょうか？より具体的な記述にしませんと市民に内容が伝わりません。
4-4-1	市街地・住環境の整備4行目	市街地の整備と土地利用の効率化、まちの強靱化を図り、計画的な整備を進めます。	「計画的な」をより具体的に示しませんと市民に意味が全く伝わらないと思います。 また、空き家等の管理や公園・緑地の整備・保全に関してもより具体的な記述が必要と思われます。
4-4-2	総合交通・道路環境の整備4行目	多様な公共交通結節点の環境整備	公共交通結節点の具体的な場所の中で特に重要度の高い地点を例示してください。そうすることでどういう所に焦点が当たっているのかイメージがしやすくなります。
4-5	産業が元気なまちづくり	1農業 2商工業 3労働環境 これしかありません	観光がありません。 第4次総合計画では観光が含まれていました。 何故削除したのでしょうか 現在観光によるまちづくりの検討はされていないのでしょうか

注1) ユニバーサルデザイン行動計画2020で共生社会実現に向けた大きな2つの柱のうちの一つ

注2) 近年再評価されている「田園都市国家構想」は故大平正芳元総理の構想、その後デジタルと融合して「デジタル田園都市国家」構想が提言されている

注3) ユニバーサルデザインは4次基本構想において「快適生活都市」に相当する幅広い概念です。住みやすいまちづくりには欠かせない内容で ユニバーサルデザインはハード面とソフト面の双方を考慮することが重要 すなわち「心のバリアフリー」「まちづくりのユニバーサルデザイン」です。

注4) ポスト・コロナ時代の対応は令和2年7月17日に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2020」において地方創生の政策の方向として「感染症への緊急対応」「感染症克服と経済活性化の両立」の視点を取り入れ、社会全体のデジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進とあります。